

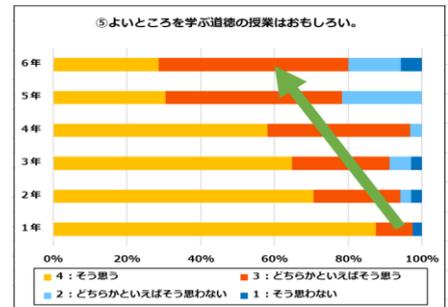
道徳的実践意欲を高める地域素材「十勝野」の活用

帯広市立帯広小学校 学級数 11 (校長 早川 一之)

I 実践テーマの趣旨

本校では、継続的に行っている道徳アンケートなどから児童の実態把握を行い、道徳科の授業改善を行っている。令和2年度末に実施した結果は、「自分のよいところを学ぶ道徳授業はおもしろい」の質問項目では高学年になると約2割の児童が「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」と回答している。

学年が上がるにつれ学習への意欲が低下している実態を踏まえ、「地域の偉人と称される方々の生き方や意志に迫る学び」、「自己の将来とのつながりを意識した地域の大人からの学び」を工夫し、道徳科への学びの意欲の向上を目指してきた。



【令和2年度末 道徳アンケートの結果】

II 実践の概要

1 地域教材「十勝野」の活用で、先人の生き方や考え方を学ぶ

帯広出身のスピードスケート選手「清水宏保」や帯広の教育の基礎を築いた「渡辺カネ」などを教材にした「十勝野」を年間指導計画に位置付け、先人の生き方や考え方について学習した。

偉人と称されるようになった人物の心情や実践を支えた思いについて児童が主体的に学ぶことができるように、児童の意志や児童が発する問いに即した授業展開を工夫した。これにより、授業では、教材への自我関与を通して、道徳的諸価値の理解に迫る姿や、他者との対話を通して、内容項目について多面的・多角的に考える姿が見られた。

【授業における工夫】

導入：道徳的価値に関わる、児童の「？」を大切に、「課題」設定

展開：教材から児童が抱く問題意識(課題を深めるきっかけ)から中心発問

展開～終末

：中心発問で拡散した思考を収束させて「共通解」や「納得解」へ

なぜ、岩元悦郎は、障がいのある人のために、こんなにたくさんのお金をしたのかな？



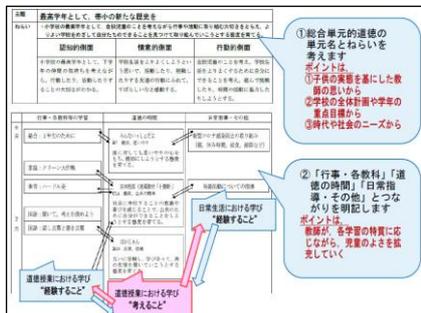
【問題意識から設定した課題を進んで追究する第5学年】

2 行事・各教科、日常指導との関連を図りながら自分の将来について地域の大人から学ぶ

児童の心を育てながら具体的な活動を通して実践につなげていく指導、日常の学校生活の中で児童の心を育てる指導などを意図的に組み立てるために、道徳科と各教科や日常指導とのつながりを一覽にした全体計画別様(総合単元ユニット)を学期ごとに作成している。

第5・6学年では、道徳科「希望と勇気、努力と強い意志」「勤労、公共の精神」の学習と、総合的な学習の時間での(株)柳月HD相談役である深瀬光正氏や(株)植松電機代表取締役である植松努氏による「心に響く授業」などの特別授業、保護者を講師とした授業などを関連付けて指導した。

これらのことから、道徳的価値について多面的・多角的にとらえることができ、児童の道徳科の授業に主体的に取り組む姿や、道徳的実践につなげていこうとする意欲を引き出すことにつながっている。



【全体計画別様 (総合単元ユニット)】



【地域の大人から学ぶ特別授業・保護者から学ぶ授業】



【日常生活と道徳授業との関わりを生かした学びにより学校生活を工夫する第6学年】

III 実践の成果 (○) と課題 (●)

○ 地域教材「十勝野」を活用した偉人と称される方々の生き方や児童の意志に迫る学びや、地域の大人を活用しながら将来について考える学習を行ったことにより、児童は登場人物に託して自らの考えや気持ちや率直に語ったり、学んだことを生活に広げようとしたりする姿が見られるようになった。また、児童に地域社会の一員としての自覚が芽生え、児童会活動で地域のゴミ拾いを行ったり、図書ボランティアの活動を進んで手伝ったりするなど道徳実践意欲の高まりが感じられた。

● 地域教材を活用した実践を校内で蓄積し、児童の意欲向上に向けた新たな課題と成果を検証していく必要がある。